

廃棄物処理対策研究事業 中間評価 評価結果

研究課題名	代表研究者	総合評価	学術的 必要性	社会的 必要性	目標の 達成度	計画の 妥当性	継続 能力	補助の 必要性
最終処分場の早期跡地利用を考慮した多機能型覆土の検討	国立環境研究所 遠藤 和人	49.7	44.1	52.0	48.6	54.6	51.6	52.0
<p>(研究概要) 研究概要及びこれまでに得られた研究成果を400字以内で記入</p> <p>廃棄物最終処分場の早期土地利用を可能にする安全性と、廃棄物の安定化促進による早期リスク削減を受動的に行うことを援用し、材料の厳密な管理を行うことなく、施工管理と設計概念によってコスト削減を図った最終覆土システムを提案することを目的としている。上下2層構造の覆土システムにおいて、下部層に求められる透気性とメタン酸化、ならびに硫化水素吸着能を評価するための要素試験装置を開発し、カラム実験を実施し、流速に依存したメタン酸化能を評価した。上部層である粘性土の水分特性を評価する試験装置を開発し検定試験を終了させ、水分保持曲線を描いた。全システムを評価するための数値解析モデルの精緻化を進めるために気液二相流のパラメトリックスタディーを行うことで、目標とする材料パラメーターを探索した。また、パイロットスケールとしての室内土槽実験を開始し、提案する覆土システムの評価を進めている。</p> <p>(評価コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実用面で成果が望まれる研究である。 								

注1) 総合評価等の数値は偏差値である。

注2) 評価コメントについては、研究課題代表者が、総合評価を評価者全体の評価結果として捉えた上で、すべての評価コメントの反映を目指すのではなく、各コメントの中で今後活かすべき重要な指摘や示唆が何かを吟味・判断の上、今後の研究計画の見直し等に活用することを期待する。